



# みどりの風

平成31年3月1日発行  
校報 第561号  
(みどりの風 第104号)  
練馬区立関町北小学校

## 平和への思い

校長 大野 泰弘

今年の冬は、気温がとても低い日こそありましたが、例年よりも雪の日が少なく、先月下旬からは、どこなく春めいた日々が続いているように感じられます。3月になり、このまま本格的な春になるのは待ち遠しいですが、首都圏のダムの貯水率は大丈夫なのだろうかと少し心配にもなります。

さて、2月19日に6年生の社会科見学があり、国会議事堂と昭和館に出かけました。国会議事堂はともかく、本校では、一昨年度まで江東区にある「戦災資料センター」に行き、そこで、昭和20年3月10日未明の「東京大空襲」を体験された方のお話を直接伺いました。6年生は、そのお話を通して、私たちが生活している東京都で何があったのか、具体的に学びました。そのお話をともに、私は、以下の話を3月10日前後の全校児童朝会で毎年話しています。

3月10日のことです。この日は「東京都平和の日」と言います。今から70年以上も前、日本はアメリカ合衆国などの国々と戦争をしていて、たくさんの人の命を失うだけでなく、農地や工場等にも被害がたくさん出ていました。

そんな昭和20年、3月10日深夜0時過ぎ、東京の空に低高度で入ってきたアメリカ軍のB29という爆撃機279機による大規模な爆撃がありました。落とされた爆弾は、焼夷弾といって、周りのものを残さずに焼いてしまう爆弾でした。当時は、木で造られた家屋が多かったので、とても大きな被害が出ました。この日1日だけで、約38万発、1万8000個の爆弾が投下されました。その日は、低気圧が通っていたので、風が強く、その分、炎も強くなったそうです。この爆撃で、約8万～10万人の方が尊い命を失い、約27万戸、東京の3分の1以上にあたる約40平方キロメートルもの広さの家々が、焼けてしまったのです。

隅田川付近は、逃げる人々であふれ、たくさんの犠牲者が出ました。真夜中だったので、防空壕にも逃げられなかったり、鉄筋の建物に逃げても、炎が竜巻のようにやってきました。そして、炎に酸素をとられて窒息したり、川に逃げ込んでも、その水の冷たさで亡くなったりした人々も多かったのだそうです。当時の戦争では、広島や長崎に原子爆弾が落とされ、戦争中唯一の地上戦が行われた沖縄県では、多くの民間の人々が亡くなりましたが、この日の東京大空襲でも大きな被害が出たのです。

それで、このような悲しい出来事を東京都に住む私たちが忘れることなく、平和の大切さを語り継いでいこうということで、1990年に定められたのが「東京都平和の日」なのです。

一方、昨年度から利用している「昭和館」では、東京大空襲を体験された方のお話を伺う場はありませんが、召集令状や千人針、戦地と家族の間で交わされた書簡、戦時中の生活用品、戦時統制下での配給制度、学童疎開、学徒動員、さらに灯火管制や防空壕といった空襲への対応など、戦争がもたらした一般社会への影響が多面的にまとめられていました。そして、太平洋戦争の後、焼け野原になった東京がどのように復興していったのか、まさに激動の「昭和史」を学ぶことができました。

私は、今回初めて「昭和館」に行きましたが、展示品の中には、自らの子ども時代を思い返すことのできる懐かしい品々に巡りあうこともでき、あらためて私がどのような社会の中で、どれほど多くの先人の方々の努力やご苦労の中で育てられてきたのかを回想することができ、「昭和」から「平成」への時代の移り変わりも感じることができました。

東日本大震災をはじめとする大きな自然災害が起こり、それにより多くの人々が辛く悲しい思いをしました。戦争の惨禍に巻き込まれることのない「平成」という時代もまもなく終わり、新しい時代を迎えようとしています。私たちは、この30年間余りの戦争がなく、平和に過ごせた歴史を振り返りながら、来たるべき新しい時代を生きる子どもたちと共に、今一度「平和の尊さ」に思いを馳せることが大切なのではないかと実感した社会科見学の日でした。

今年度も3月の大きな行事としては「修了式」と「卒業式」を残すのみとなりました。保護者、地域の皆様には、学校の教育活動に温かいご理解とご支援を賜り、ありがとうございます。厚く御礼を申し上げます。来年度の開校60周年記念行事と校舎等全面改築工事に向けて、子どもたちのために着実に教育活動を進めてまいりたいと存じますので、引き続き、皆様のお力添えを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。